

| | | | | | | | | | |
|----------------------|---|------|----|---------|----|------|-------|-----|-----|
| 講義コード | 11C0111502 | 授業形態 | 講義 | 事前登録の有無 | なし | 担当教員 | 池尾 和人 | 開講期 | 第2期 |
| 科目名 | 金融論2B | | | | | | | 第2期 | |
| 履修前提条件 | | | | | 備考 | | | | |
| 授業の目的 | 金融論2は、「応用編」の位置付けで、4部からなる。第1部では、金融論1の復習の後、金融機能の高度化について講述する（第1回～第4回）。第2部では金融危機について（第5回～第8回）、続く第3部では金融危機に対処するための規制・監督について（第9回～第12回）取り上げる。第4部では、企業統治の金融的側面について説明する（第13回と第14回）。最後の第15回は、講義全体の復習とまとめにあてる。 | | | | | | | | |
| 到達目標 | 現代の金融の変化が理解できる。金融危機の弊害の大きさを知り、その防止のための金融規制・監督の意義について説明できる。 | | | | | | | | |
| 授業外学修内容・ 授業外学修時間数 | 授業1コマについて、2時間の予習と2時間の復習（計4時間）を行う必要がある。授業は15回なので、全体で60時間以上の授業外学修を行うことが求められる。授業外学修で取り組むべき課題や参考文献等については、適宜指示する。 | | | | | | | | |
| 授業計画 | <p>【第1回】 復習：金融仲介と決済</p> <p>【第2回】 金融革新の進展</p> <p>【第3回】 リスク管理と金融派生商品</p> <p>【第4回】 証券化と金融のアンバンドリング</p> <p>【第5回】 銀行危機の可能性：ソルベンシーと流動性</p> <p>【第6回】 資産価格とバブル</p> <p>【第7回】 日本の不良債権問題</p> <p>【第8回】 米国の金融危機</p> <p>【第9回】 金融規制と監督</p> <p>【第10回】 セーフティネットとモラルハザード</p> <p>【第11回】 資本市場に関するルール</p> <p>【第12回】 国際的な金融規制の見直し</p> <p>【第13回】 株式の持ち合い</p> <p>【第14回】 メインバンク制</p> <p>【第15回】 まとめ</p> | | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 基本的に期末試験の成績に基づいて評価する。ただし、授業への取り組み姿勢を考慮する場合がある。 | | | | | | | | |
| フィードバックの内容 | | | | | | | | | |
| 教科書 | 『現代の金融入門【新版】』池尾和人（筑摩書房）2010 | | | | | | | | |
| 指定図書 | | | | | | | | | |
| 参考書 | | | | | | | | | |
| 教員からのお知らせ | | | | | | | | | |
| オフィスアワー | 本授業に関する質問・相談は、経済学部で定めるオフィスアワーにて受け付けます。また、WebClass のメッセージ機能でも受け付ける予定です（利用方法は、ポータルサイト、ライブラリ内のマニュアルを参照）。 | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | | |